

Commercial Solutions Division  
Instruction Bulletin

## 取扱説明書

### 3M™ ダイノック™ フィルム NEO シリーズ (壁・天井用)

本書は、3M™ ダイノック™ フィルム NEO シリーズ (壁・天井用) を浴室へ施工する時の取扱いを説明するものです。水廻りではない標準的な建築内装環境では、3M™ ダイノック™ フィルム スタンダードシリーズと同様に施工してください。3M™ ダイノック™ フィルム NEO シリーズ (タイル壁用、床用) は、各製品の説明書をご確認ください。

#### 1 貼り付け作業の流れ／作業手順

次の流れで 3M™ ダイノック™ フィルム NEO シリーズ (壁・天井用) の貼り付け作業を行います。

- 4.1 作業環境の確認
- 4.2 養生
- 4.3 各設備の取り外し
- 4.4 下地調整
  - ・ 4.4.1 既存のシーリング材の除去
  - ・ 4.4.2 清掃
  - ・ 4.4.3 パテ打ち
  - ・ 4.4.4 発泡塩化ビニル系樹脂板貼り
  - ・ 4.4.5 プライマー塗布
- 4.5 フィルム貼付
- 4.6 シーリング
- 4.7 取り外した設備の再設置
- 4.8 点検
- 4.9 フィルム表面清掃

## 2 使用する工具、副資材

主に、次の工具や副資材が必要となります。

工具類	養生シート、脚立・踏み台、水道工事用工具、電気工事用工具 投光機、延長コード、温風ヒーター
清掃関連	ウエス、清掃用溶剤、刷毛（清掃用） 掃除用具（箒、塵取り、中性洗剤、ゴム手袋、長靴など）
下地調整関連	パテ（粉パテ、練りパテ、ポリパテ）、パテベラ大・中・小 サンドペーパー、ワイヤーブラシ、サンダー、グラインダー 刷毛、ローラー刷毛、プライマー（3M™ プライマーDP-900N3） 各種保護具（防毒マスク、保護めがね） 局所排気装置、発泡塩化ビニル系樹脂板 弾性接着剤 両面テープ（3M™ ポリエチレンフォーム MIX-313 など） ジョイナー、マスキングテープ
採寸・裁断関連	メジャー、スチール製定規、カッターナイフ（大・小）、カンナ カッティングマット、ジョイントカッター
フィルム貼付関連	プラスチックスキージ（3M™ スキージー PA-1 ホワイト。そのままのもの、 柔らかい布を巻いたもの） ドライヤー・ヒートガン、地ベラ、10mmの厚さの板（アクリル板など） 竹ベラ、シリコーン系シーリング材（無溶剤タイプ、防カビ剤タイプ）

## 3 作業環境

作業環境やフィルム、下地の温度は12～38℃で行ってください。それよりも温度が低い場合は温風ヒーター・ドライヤーなどで温めてから貼り付け作業を行うようにしてください。

作業場所周辺はホコリが立たないように清掃してから、フィルム貼り付け作業を行ってください。ホコリや細かいチリが貼り付け基材とフィルムとの間に入ると、仕上り表面に突起が生じる原因になります。

暗い場所で作業しますと、気泡や仕上りミスの発見が困難になります。貼付け面が暗い時は補助照明などで明るくしてから作業を行ってください。

プライマーは可燃性引火物ですので火気・高温物から十分離して塗布するようにし、換気にも十分注意してください。

対象とする下地基材は、塩ビ鋼板やFPRなどの水分の吸い込みがない下地で表面が平滑なものに限ります。石膏ボードやケイ酸カルシウム板のような水分を吸い込む下地に施工すると、施工後にフィルムが膨れたり剥がれたりする場合があります。

## 4 各作業内容の説明

### 4.1 作業環境の確認

- ・ 施工場所が上記「3 作業環境」に記載される作業環境であることを確認してください。

### 4.2 養生

- ・ 浴槽や床などに傷がつかないように、養生シートなどで保護してください。
- ・ 排水口にゴミなどが入らないようにしてください。

### 4.3 各設備の取り外し

- ・ フィルムを施工する前に、浴室にある設備をできるだけ取り外します。
- ・ 施工時に障害物が多いと、作業効率が悪いばかりではなく、フィルムのジョイントが多くなったり貼付けの際にシワが発生したりします。
- ・ 浴室にある代表的な設備は次のようなものです。

- ①浴槽、②バランス釜、③水道栓、④シャワーフック、⑤タオル掛け
- ⑥換気扇、⑦鏡、⑧手すり、⑨ブラインド、⑩照明、⑪浴室ドア

#### 4.3.1 浴槽の取り外し

- ・ 据え置きタイプ浴槽は出来るだけ搬出してください。
- ・ 設置したまま施工すると、浴槽の縁にシーリング処理を施す事になります。

#### 4.3.2 バランス釜の取り外し

- ・ 搬出してから施工した方が望ましいですが、取り付けには資格が必要ですので、着脱は専門業者に依頼してください。

#### 4.3.3 水道栓の取り外し

- ・ 次の手順で行ってください。
  - ①元栓を締めてください。
  - ②他の場所の水道栓より配管内残圧を抜いてください。
  - ③水道栓に傷をつけないようにウエス等で保護し、パイプレンチやモンキー等で緩めてください。
- ※ 注 古い水道栓は錆びて硬くなっていて、無理に回すと根元から折れてしまう可能性もありますので、力任せには回さないでください。回らない場合は取り外さないでフィルムを貼付します。
- ④回り始めて何周で取り外せたか覚えておくと、取り付け時の参考になります。
- ⑤水道栓を取り外した水道口にシールテープを巻いたプラグで止水をしてください。
- ⑥元栓を開けてください。

#### 4.3.4 ネジ止めしてある設備の取り外し

- ・ 洗面ユニットと一体となっている鏡は取り外しできない場合があります。
- ・ ネジ頭が錆びていて取り外せない場合はネジを切断してください。切断したネジがペンチなどで外せればネジ穴はそのまま使用してください。
- ・ ネジ穴が駄目になった場合、使用不能になったネジ穴はポリパテで埋めてください。この場合、取り付け時に元の位置に近い場所に穴を開け、設備を取付けてください。

#### 4.3.5 照明器具の取り外し

- ・ 電気配線の切断・接続には電気工事士の資格が必要になります。

## 4.4 下地調整

### 4.4.1 既存のシーリング材の除去

- ・ カッターなどを用いて既存のシーリングを除去し、完全に除去できない場合はサンドペーパーで削り落としてください。シーリング材には粘着剤が付きません。

### 4.4.2 清掃

- ・ 汚れ、ゴミ、油脂分などをアルコールあるいはラッカーシンナーなどを含ませたウエスで清掃してください。
- ・ 汚れやなどが残っていると接着不良の原因になりますので清掃は十分に行ってください。

### 4.4.3 パテ打ち

- ・ 接着性と仕上り状態を良くするため、凹凸のある場合はパテ埋めし、できるだけ全体が平滑に仕上るよう180番程度のサンドペーパーでサンディングしてください。
- ・ パテを使用する場合は、基材との密着性に優れ、肉やせが少なく、皮膜の硬いタイプを使用してください。
- ・ 全面パテを打つ場合は伸びの良いものを使用し、乾燥後は肉やせしやすいので、サンドペーパーをかけた後、再度パテを打ってください。表面が平滑になるまでこの作業を繰り返します。
- ・ パテの取り扱いを使用するメーカーの説明書を参照してください。
- ・ パテの上には3M™ プライマーDP-900N3を必ず塗布してください。

### 4.4.4 発泡塩化ビニル系樹脂板貼り<8ページ参照>

- ・ 下地の表面が悪くて直接フィルムが貼れない場合、発泡塩化ビニル系樹脂板を使用して、下地を作製します。

### 4.4.5 プライマー塗布

- ・ 接着性を高めるため、全面にプライマーを均一に塗布してください。

#### ※塩ビ鋼板下地材における下地調整の注意点

- ・ 表面に錆が発生している場合は、ワイヤーブラシやサンドペーパーで完全に除去してください。
- ・ 錆が裏側まで進行している場合は錆の部分を撤去し、発泡塩化ビニル系樹脂板を貼り付けて下地を作ってください。
- ・ 錆を落とした後は錆止め塗料などで防錆処理を行ってください。
- ・ 表面には3M™ プライマーDP-900N3を全面に塗布してください。

## 4.5 フィルム貼付

### 4.5.1 採寸

- ・ 貼り付け部分の正確な採寸をしてください。

### 4.5.2 フィルムの裁断

- ・ 多少のロスを考慮して必要な寸法より 4~5cm 大きめにフィルムを裁断してください。
- ・ 裏紙には約 10cm 角の線が印刷してありますが、目盛りは正確ではありませんのでご注意ください。
- ・ 裁断する際、フィルム表面を保護するために床を養生してください。
- ・ カットするにはカッティングマットを敷き、定規などを使用してください。

### 4.5.3 フィルムの貼付

#### 4.5.3.1 平面部

##### (a) 貼り付け準備

裁断したフィルムのロール長手方向を縦にして、裏紙の上部約 10~15cm を剥がし、直線になるように完全に折ってください。フィルムは長手方向に貼らないとシワが発生する原因となります。

##### (b) 位置決め①

フィルムを貼り付ける面に合わせ、全体の位置を合わせます。この時、裏紙を剥がした粘着剤の部分が下地に接着しないように注意してください。

##### (c) 位置決め②

裏紙を折り曲げた部分の中央部を指で軽く仮圧着します。

##### (d) 位置決め③

上下左右の位置を再度確認し、全体の位置を微調整します。位置がずれていた場合は仮圧着した部分を一度剥がしてから、位置を調整後、再度仮圧着します。

##### (e) 位置決め④

裏紙を折り曲げた部分を、中央から左右に指で圧着し、貼り付け位置を決定します。

##### (f) スキージ（布を巻いたもの）による圧着

指で圧着した部分より上を、スキージを使用して、中央部から上部に向けて空気を押し出すようにフィルムを圧着します。

##### (g) 貼り付け

圧着する前にフィルムの粘着剤が下地に付着しないように、フィルムを手前に起こしながら 20~30cm 程度裏紙を剥がし、中央から左右にスキージで圧着して行きます。この時スキージを約 45 度（右に動かす時は 2 時の角度）に傾け、空気を斜め下に押し出すようにしながら真横にスキージをスライドさせます。剥がした裏紙を折り曲げずに、その弾力性を利用すると、圧着前に粘着剤が下地に着く事なく、作業を容易に行う事ができます。圧着されていない部分を生じさせないため、圧着する幅はスキージの半分にしします。

(h) 再圧着

全体をもう一度圧着してください。特に端部は丁寧に行ってください。圧着が不十分な場合、後日、気泡が発生する原因となります。

(i) 仕上げ

フィルム端部の不要な部分をカッターナイフで切り落とします。

(j) 確認作業

貼付したフィルム表面をドライヤーで暖めながら、目視と手で触って気泡がないことを確認してください。気泡が残っていた場合は、針またはカッターナイフ（新品の刃）の先端で穴をあけ、スキージで空気を追い出してください。

#### 4.5.3.2 入隅部

(a) 裏紙の裁断

フィルムに傷をつけないよう注意しながら、狭い面積（折り曲げた先）のフィルムの裏紙がコーナー部分にかかるように、裏紙だけを先にカットします。専用工具のジョイントカッターを使用すると便利です。

(b) 貼り付け①

前記平面部貼り付けに従い、入隅部を境に面積が広い方から先に貼り付けてください。その時、面積の狭い方の裏紙は剥がさないでください。

(c) 貼り付け②

狭い方の裏紙を剥がし、入隅部の貼り付けを行います。コーナー部に気泡やたるみが残らないように注意し、圧着していない部分が先に下地に付かないようにフィルム端部を手で起こしながら、角部に沿ってスキージで圧着してください。この時、不用意に押し込みますとフィルムが破れる事がありますので注意してください。気温が 20℃以下の場合はドライヤーで全体を均一に加熱しながら貼り付けを行ってください。

(d) 貼り付け③

面積の狭い方の貼り付けを行います。圧着していない部分が先に下地に付かないようにフィルム端部を手で起こしながら、もう一方の手でスキージを使用して中央の高さから上下に圧着し、入隅から端部へと圧着を進めていきます。

(e) 仕上げ

フィルム端部の不要な部分をカッターナイフで切り落とします。狭い方のフィルムの端部は、壁面・天井用フィルムの場合 10mm 程残してカットします。

(f) 再圧着／確認作業

前記平面部に従って行ってください。

#### 4.5.3.3 出隅部

(a) 裏紙の裁断

フィルムに傷をつけないよう注意しながら、狭い面積（折り曲げた先）のフィルムの裏紙がコーナー部分にかからないように、裏紙だけを先にカットします。専用工具のジョイントカッターを使用すると便利です。

(b) 貼り付け①

前記平面部貼り付けに従い、出隅部を境に面積が広い方から先に貼り付けてください。その時、面積の狭い方の裏紙は剥がさないでください。

(c) 貼り付け②

出隅部の貼り付けは、コーナー部に気泡やたるみが出ないように貼り付けてください。角出しは、折り返すフィルムを軽く引張りながら軍手あるいはウエスを使用して角の部分を圧着してください。気温が 20℃以下の場合はドライヤーで全体を均一に加熱しながら貼り付けを行ってください。

(d) 貼り付け③

面積の狭い方の貼り付けを行います。裏紙を剥がし、圧着していない部分が先に下地に付かないようにフィルム端部を手で起こしながら、もう一方の手でスキージを使用して中央の高さから上下に圧着し、出隅から端部へと圧着を進めていきます。

(e) 再圧着／仕上げ／確認作業

前記平面部に従って行ってください。

#### 4.5.3.4 三次元曲面部（ユニットバス点検口・蓋など）

(a) フィルム裁断

フィルム端部を手でつかみながら作業するので、必要な寸法よりも 10cm 程度大きく裁断してください。

(b) 貼り付け①

前記平面部に従って、平面部分より貼り付けてください。

(c) 貼り付け②

曲面部に当たるフィルム全体をまんべんなくドライヤーで暖めて、フィルムが柔らかくなってから、伸ばしながら曲面部を包み込むように貼ります。裏側へフィルムを巻き込める場合は、1～2cm 程巻き込むとフィルム端部の剥がれを防ぐことができます。

(d) 再圧着／仕上げ／確認作業

前記平面部に従って行ってください。

#### 4.5.3.5 フィルムのジョイント

- ・ 重ね貼りでジョイントします。約 10mm 重ねます。
- ・ 下になるフィルムの表面に 3M™ プライマー-DP-900N3 を塗布します。
- ・ 上になるフィルムは、重ね幅に合うように正確に貼るか、貼ってから重ね部分の幅を調整するためにカットします。この際、下のフィルムを切らないように注意してください。
- ・ 重ね部分からはみ出したプライマーは速やかに清掃用溶剤を使用して拭き取ってください。
- ・ 上のフィルムのカットした面を目立たないようにするため、浴室を使用する際にカット面が視線の来ない側になるように、フィルムの貼る順番を考慮してください。

#### 4.5.3.6 【関連技術】発泡塩化ビニル系樹脂板捨て張り工法

- ・ 発泡塩化ビニル系樹脂板（以下、プレートという）は、適度な柔軟性があり、カッターでの切断、カンナで削る、熱をかけて折り曲げるなどの加工が容易に行えます。
- ・ モルタル壁面や天井の表面状態が良好でない場合、プレートを全面に貼って平滑な面を作製します。
- ・ また、塩ビ鋼板製壁面下部のさびの部分に巾木状に貼り付けて補修する用途にも使用します。
- ・ プレートのジョイントはジョイナーを使用するか、ポリパテを使用してつなぎ目を平滑にしてください。
- ・ 以下の手順で作業を行ってください。

(a) 採寸

プレート貼付け面の採寸を正確に行います。この採寸を正確に行わないと、プレート間に隙間が開いたり、大きすぎたりして、後調整が大変になります。縦方向・横方向それぞれ数点計測を行います。

(b) プレートカット

採寸した寸法に合わせ、プレートをカッターナイフでカットします。カットする際はカッティングマットの上で行い、表になる面に傷を付けないように気を付けてください。

(c) 両面テープ貼り付け

両面テープは初期接着を得るために使用します。プレートと両面テープとの接着力を高めるために両面テープを貼る位置に 3M™ プライマー-DP-900N3 を塗布します。両面テープはプレートの外周と内側 500mm～600mm の間隔で貼ります。

(d) 弾性接着剤塗布

弾性接着剤をプレート上に 2cm 程の大きさと点付け塗布します。点付けの間隔は 120mm～130mm で、両面テープから 30mm は離すようにします。（両面テープに近いと圧着した時に接着剤が両面テープの上に広がり十分な初期接着が得られなくなります）



(e) 壁面への圧着

両面テープ (3M™ ポリエチレンフォーム MIX-313 など) のライナーを剥がし、壁面へ貼付けます。両面テープ・弾性接着剤が不要な壁面に付着しないように位置決めをし、ずらさないように貼り付けます。

(f) 圧着

壁面へ完全に圧着します。団子状の弾性接着剤が平らになるようにプレートの上から手のひらで押し付け、両面テープを十分に圧着させます。この時に弾性接着剤を十分に押し広げておかなければ、硬化後にプレート表面が平滑に仕上がりにません。

## 4.6 シーリング

- ・ フィルム端部の剥がれ防止や裏面への水の浸入を防ぐのが目的です。
- ・ 次の場所にシーリングを施します。

フィルム端部、天井と壁との間、壁と床の間、浴槽周り、浴室設備の周りなど

- ・ 種類はシリコン系の無溶剤タイプをご使用してください。溶剤系のものを使用しますと、フィルムの表面を侵してしまう恐れがあります。
- ・ 以下の手順で作業を行ってください。

(a) 養生

シーリングの仕上がりをきれいにするためにマスキングテープにて養生します。マスキングテープは直線に貼り付け、入隅・出隅は基材と同じ角度を出して貼ってください。マスキングテープはなるべく切らずに1本で廻してください。

(b) プライマー塗布

シーリングを施す箇所には 3M™ プライマーDP-900N3 を塗布してください。プライマーを塗布しないと、シーリングの剥がれの原因になります。

(c) シーリング充填

マスキングで養生した箇所にシーリング材の量を加減しながら充填して行きます。

(d) シーリング仕上げ

シーリング用ヘラを使用して平滑にならします。

(e) マスキングテープ除去

マスキングテープを剥がします。剥がす際にシーリング材が壁などに付着しないように注意してください。シーリング材の表面硬化は早いので、充填してから 10 分以内にマスキングテープを剥がしてください。時間が経過してからマスキングテープを剥がしますと、シーリング端部がささくれてきれいな仕上がりになりません。

#### 4.7 取り外した器具の再設置

- ・ 取り外した器具を元に戻してください。
- ・ ビス止めされていた設備において、既存のネジ穴が使用できなくなった場合は近い位置に穴をあけ、アンカー挿入後、ビス止めしてください。
- ・ 水道栓の取り付け方は次の手順で行ってください。
  - ①元栓を閉めてください。
  - ②他の場所の水道栓より配管内残圧を抜いてください。
  - ③取り外してある水道栓のネジ部にシールテープを7~10周きつく巻き付けてください。
  - ④パッキンは必ず新しいものと交換してください。  
(古いパッキンは硬化しており再使用すると漏水の原因になります)
  - ⑤水道栓に傷をつけないようにウエスなどで保護し、パイプレンチやモンキーなどで締め付けてください。  
※取り外し時の周回を目安に締め付けてください。
  - ⑥水道栓が正面を向くように締め付けます。この時締めすぎたため、少量回し戻す事はしないでください。僅かでも戻しますと漏水の原因になります。正面からずれた場合はシールテープ巻き直しから行ってください。
  - ⑦元栓を開けてください。
  - ⑧漏水がないか確認を行ってください。

#### 4.8 点検

- ・ フィルムの気泡、水漏れ、電気製品関係に問題ないかどうか確認をしてください。

#### 4.9 フィルム表面清掃

- ・ 最終的にフィルムの表面を清掃して完成です。

## 5 製品の保管

- ・ 過度の湿気や直射日光を避け、周囲温度 38℃以下の清潔な場所に保管し、購入後 1 年以内にご使用ください。
- ・ 保管時にはカートン内でフィルムが宙吊りになるように保管してください。

## 6 注意事項

- ・ 防水目的の水漏れ個所の補修には使用できません。
- ・ 溶剤を使用する際には、換気を十分に行い、保護具を着用してください。また、近隣環境への配慮を行ってください。
- ・ フィルムまたは剥離紙の端部で手を切る恐れがありますので、取り扱いにご注意ください。
- ・ 施工前には十分施工個所を乾燥させてから行ってください。
- ・ 下地の形状によってはフィルムが曲面に追従しきれないことがあります。
- ・ 水分の含まれない下地に施工してください。湿式工法によるタイルやモルタルに直接施工した場合、下地からの水分の影響で、施工後にフィルムが剥がれたり膨れたりする場合があります。
- ・ 本書は、一般的な施工方法について述べたものです。工事の基本的な進め方、考え方を解説しているのみで、確実な施工を保証するものではありません。
- ・ 現場により、個々の納まり、各設備の状態、取扱方法などは異なりますので、事前にお客様との打ち合わせ、浴室内の設備の確認をお願い致します。

## 7 清掃・メンテナンス

### 7.1 清掃について

- ・ 清掃は浴室用中性洗剤を散布し、ナイロンブラシ・スポンジたわしで洗い流してください。
- ・ 清掃の際に次のものは使用しないでください。フィルムの表面が摩耗し劣化したり破損したりする原因となります。
  - ・ クレンザー・研磨材入りの洗剤
  - ・ 研磨材入りのナイロンたわし、金属製たわし
  - ・ 金属の止め具のあるたわし・ブラシ
  - ・ シンナー・ベンジンなどの溶剤
- ・ 汚れが蓄積すると中性洗剤で落ちにくい場合がありますので、汚れの程度に応じて定期的に清掃することをお勧め致します。
- ・ 色の濃い製品ほど、白い石鹸カスが目立つ傾向があります。また、FA-1528NEO(旧品番 NEO-R616)、AE-1633NEO (旧品番 NEO-R618) は表面の凹凸が深いので汚れが落ちにくい場合があります。
- ・ 落ちにくい石鹸カスはメラミンスポンジ（参考推奨：スコッチ・ブライト™ バスシャイン™ 波型メラミンスポンジ）を使用すると落としやすくなる場合があります。力任せに擦ると、フィルム表面を傷付ける場合がありますので、力加減を確認しながらご使用ください。

## 7.2 使用上のご注意

- ・ 強い衝撃を与えないでください。シャワーヘッドなど硬い物をぶついたり、擦ったりするとフィルムが破損し、ケガをする恐れがあります。
- ・ 毛染め液やマニキュアなどを付着させないでください。付着したまま放置すると変色の原因になりますので、付着した場合にはすぐに洗剤で洗い流してください。

## 8 廃棄

自治体の法令／指示に従って廃棄処分してください。

本仕様および外観は予告なく変更されることがありますのでご了承ください。本書に記載してある事項、技術上の資料並びに勧告は全て弊社の信頼している実験に基づいていますが、その正確性若しくは完全性について絶対的な保証はしません。使用者は使用に先立って製品が自己の用途に適合するか否かを判断し、それに伴う危険と責任を全て負うものとします。売主及び製造者の義務は不良であることが証明された製品を取り替えることだけであり、それ以外の責任はご容赦ください。本書に記載されていない事項若しくは勧告は、売主及び製造者の役員が署名した契約書に依らない限り弊社は責任を負いません。

3M、ダイノック、スコッチ・ブライト、バスシャインは、3M社の商標です。




スリーエム ジャパン株式会社  
コマーシャルソリューション事業部

© 3M 2021. All rights reserved  
PC-0038-00  
2021/11/15

カスタマーコールセンター

製品のお問い合わせはナビダイヤルで

 **0570-012-123**

9:00～17:00 / 月～金 (土日祝年末年始は降く)